

平和という道

名蔵中学校 3 年 赤嶺萌百伽

「There is no path to peace. Peace is the path. (平和への道はない。平和こそが道なのだ。)」インドのマハトマ・ガンジーの言葉です。

沖縄戦が終わって七十年。沖縄はあの戦争の傷跡から立ち直り、人々は、平和な時の中で暮らしているようです。でも、はたしてそうでしょうか。沖縄に、日本に、世界には、「平和の道」はできているのでしょうか。

ここ沖縄では、日本で唯一の地上戦がありました。もう一つの沖縄戦と呼ばれるマラリアが人々を苦しめました。戦争による心の傷がまだ癒されていない人が大勢います。七十年たっても、遺骨がこの地のどこかに眠ったままの人がいます。米軍基地から離発着する飛行機やヘリの騒音に悩まされて続けています。米軍基地の移設問題による、政府と沖縄との溝はまだ深いままです。

世界のどこかでは、テロや紛争で、多くの人が命を落としています。貧困により学校に行かせてもらえない子ども達があります。重労働を強いられている子ども達があります。病気になっても満足な医療を受けられず命を落としてしまう子ども達があります。虐待を受ける子どももいます。親を亡くし、その日その日を食いつないでいる子ども達があります。兵器を持って戦場へと向かう子ども達もいます。

私は、学校に行かせてもらい、お稽古事をさせてもらい、必要なものは買ってもらい、十分に食事をさせてもらい、ぐっすり眠らせてもらうという生活をしています。うれしいときや楽しいときは笑っていられます。明日はこんなことをしよう、将来はこういうふうになりたいなど、希望が持てます。明日生きられるかどうかという不安を抱くことはありません。こんな生活が当たり前だと思っていました。でも、世界には、私が生活している「当たり前」を経験したことの無い同年代の人達が数多くいるのです。私の日常を分けてあげたくてもそれはかないません。今のこの世界では、やはりガンジーの言う「平和の道」はまだできていないのです。

「平和の道」ができるのは、いつなのでしょう。みんなが平和を願っているのに、なぜ、世界は平和にならないのでしょうか。みんなが何の不安もなく、笑顔で過ごせる日が来るのはいつなのでしょう。

「平和の道」が世界にまだないのなら、これからの未来をつくる私達はその「平和の道」を築いていってはどうでしょうか。世界の全ての子ども達がきちんと教育を受け、生きる希望を持ち、明るい明日へ向かっていくためにも、もっと世界へ声を届けていくことが必要だと思います。

そのために私にできることは何かを考え、行動を起こしていきます。それが、幸せな日常を送っている私に課せられた使命だと思うから。